

市教研書写部会 10月授業研究会

特別支援学級 国語科書写学習指導案

市教研統一研究課題

自ら学び心豊かに生きる力を身につけた児童生徒の育成

平成25年度書写部会 研究課題

一人一人が主体的に取り組む書写授業のあり方

【仮説1】課題のもたせ方の工夫

児童・生徒一人一人が自分にあった課題をもち、自分の文字について振り返りの方法をつかめば、文字を書こうとする意識が高まるであろう。

【仮説2】支援の工夫

児童・生徒一人一人が自分の力で解決できるような支援の方法と場を工夫すれば、児童・生徒の学習意欲は喚起され、主体的に取り組むであろう。

【仮説3】評価方法の工夫

学習のねらいや実態に応じた評価方法の基準を明確にして学習すれば、児童・生徒は文字感覚が豊かになり、成就感が得られ、日常の書写学習に生かすことができるようになるだろう。

授業日時	平成25年10月22日（火）
授業者	真砂中 伊丹 純子
授業展開	特別支援学級（F組）
授業展開場所	F1教室
協議会会場	F1教室

特別支援学級 国語科書写学習指導案

千葉市立真砂中学校

伊丹 純子

1 単元名 「払い」の筆使い 「木」

2 単元について

(1) 特別支援学級での書写

特別支援学級では、どのように書写の学習を進めるべきか。実践例もほとんどない。生徒の感性を生かして書的な表現の世界に入り込んだ内容を多く取り入れ、書の楽しさを味わわせることに重点を置く方法がよいのかとも考えた。しかし、特別支援学級に学ぶ生徒たちの将来を考えた場合、いろいろな人と言語を通して関わることになる。言語には文字言語と音声言語があるが、その両者を使うことができる力がある程度備えておかないと、人との関わりを密にすることが困難になってしまう。文字を正しく整えて書く能力やコミュニケーション能力を育てることは必須である。したがって、書写の学習が生徒の自立へとつながるように、生徒の実態をよく見ながら、文字を書くときの基礎基本や話し合い活動などの言語活動を大切に授業を行うこととした。

(2) 「文字を書くこと」を学習するにあたって

特別支援学級の生徒が文字を書くには、見る力、聞く力、言葉の力、文字への関心など、全面的な発達を促すことが必要である。そのため、次の点に留意して学習を進める。

① 見る力を育てる

書写の学習では、手本をよく見て正しく文字を書くことが基本となる。そこで、「美文字への道」というワークシートを用意し、メロンの絵を忠実に真似して描く練習を行うこととする。これは等間隔に線を引く練習にもなる。

② 聞く力を育てる

指示されたことが聞けなかったり、一方的に話していたりしては、学習内容を身に付けることはできないので、普段から学習中の私語を慎み、指示をよく聞いて活動できるようにする。

③ 言葉の力を育てる

文字を学ぶときに必要な、長い短い・太い細い・広い狭いなどの形容詞、縦・横・斜め・左・右など方向を表す言葉、曲がる・折れる・そるなど動作を表す言葉、その他書写用語など、常に適切な言葉を使うようにする。

④ 文字への関心を高める

本校に通う特別支援学級生徒の能力差を考えると、これまでの文字への関わり方にも違いがあると思われる。しかし、教具を工夫することで、どの生徒も整った正しい文字を書く原理原則を学び、達成感を味わうことができるようにする。

(3) 単元観

4月から7月まで、生徒は硬筆の学習を通して、書写に対する姿勢を養ってきた（学習内容など詳しいことは、後に記載している）。毛筆を始めたのは9月に入ってからである。まず用具の準備片付けのない筆ペンを用いて、簡単な線を練習したり、名前を書くことに挑戦したりした。次に、書写道具と書写バッグ（書いたものはさんでおくもの）の準備を経て、大筆で横画・縦画を書く練習を行い、そのまゝとめとして「十」という文字を書く。本単元では、教材文字「木」を題材に、毛筆で終筆の「払い」の筆使いを学習する。「左払い」では、送筆から終筆にかけて、ゆっくりとしたカーブを描きながら徐々に力を抜いていき、ゆっくりとはらう。「右払い」では、一度きちんと押さえてから力を抜きながらゆっくりと書くことを理解できるようにする。特に「右払い」は、硬筆で書く際にもしっかり意識して書くよう、注意を促したい。

特別支援学級の中には、筆と墨を使って学習に取り組むこと自体が困難な生徒が多い。また、説明を聞いただけでは、内容をすぐに理解することが難しい生徒もいる。そこで、手を使って動かす教具や目で見てすぐにわかるようなメディア機器を用いるなどして、支援の工夫をしていきたい。また、気付いたことや考えたことを話し合い、友達と関わり合いながら学習を進めていくことを通して、生徒の文字意識を高めていきたいと考える。

3 生徒の実態 (1) 男子15名 女子12名 (○印) 合計27名

年	番	生徒の様子		グループ
1	1	情緒。取り掛かりが遅いこともあるが、考えてしっかりやる。		B
	②	知的。能力は低い、やりたがる。余計なお世話が多い。	通	C
	3	情緒。わからなかったり、できなかつたりするとムスツと不機嫌になる。		B
	④	知的。ダウン症。与えられた課題は自分なりにがんばる。頑なになることもある。文字を書くことが苦手。	通	C
	⑤	情緒。能力が高い。課題はしっかりできる。	※	A
	⑥	知的。基本的に支持は通るが、場合によってはパニックになる。	通	A
	7	情緒。出された課題はしっかりやれる。多少マイペース。		B
2	①	知的。まじめで一生懸命。	※	A
	2	知的。ダウン症。明るく人懐っこい。文字を書くことが苦手。		C
	③	知的。両耳の鼓膜に穴。能力は低い、意欲的に取り組む。		C
	4	知的。じっとしていることが苦手。すぐにしゃべってしまう。	通	B
	5	情緒。注意を素直に聞き入れることができない。集中が持続しないことが多い。		B
	6	知的。静かで落ち着いた学習態度。姿勢◎。行動はゆっくり。		B
	7	知的。まじめで、意欲的に授業に取り組む。指示が理解できないことがある。		B
	8	知的。両耳難聴。おしゃべりが多い。集中すると黙々と作業ができる。	通	A
3	1	知的。手先が不器用。文字を書くことが苦手。	通	C
	②	情緒。コミュニケーションに課題。絵や裁縫はとても上手。長欠傾向。	通	A
	3	情緒。発問に対して反応がよい。		B
	④	情緒。1対1で指導すれば、わかることが多い。わからないと隣を見て真似をする。		C
	⑤	知的。時々居眠り。授業には一生懸命取り組む。		B
	6	知的。ダウン症。発語は少ない。指示は身振りを混ぜながら丁寧に行う必要がある。1対1の支援が必要。	通	C
	7	知的。精神運動発達遅滞。車椅子使用。授業中は座っているだけ。音楽には興味を示す。	通	C
	⑧	知的。遅刻・早退が非常に多い。人見知り。好きなことだけやりたがる。	通 ※	A
	9	知的。指示はしっかり通る。友達的面倒をよく見る。優しい。		A
	⑩	知的。だらしがなく、わがまま。指示は通るが、できないとすぐに諦める。		A
	⑪	情緒。クラスのリーダー的存在。能力が高い。面倒見がよい。文字もきれい。	※	A
	12	情緒。言うことは的確だが言葉がきつい。よく寝ている。だらしない。	通 ※	A

[考察]

文字を書くことが好きで、すでに正しく整った文字を書くことができる生徒がいる一方で、文字を書くこと自体が困難な生徒もいる。力の差がたいへん大きい中での書写学習である。積み重ねることが難しい生徒も多い。50分間みっちり学習するのは、実は辛いことなのではないかと思うこともあった。しかし、硬筆の学習を終えた後に行ったアンケートでは、「書写の時間が好き・少し好き」と答えた生徒が23名中18名いて、その理由として13名の生徒が「字がうまくなりたいたから。」と答えた。「褒められたいから」と書いた生徒もいて、やはり認められたいのだと思った。また、毛筆の学習を「楽しみ・少し楽しみ」と答えた生徒は、18名に上った。その中には、鉛筆を持つ手がぎこちない生徒もいる。そのような生徒が筆の穂先を使って文字を書くというのは、かなり難しいことだ。たんぽを用いるなどの対策を講じる必要がある。

アンケートの結果を見ると、書写に対する興味・関心が予想以上に強く、意欲的であることがわかる。つまり、生徒の心の中には正しく整った文字を書きたいという欲求があり、それを学ぶ場を求めているのではないか。これまで、書写をきちんと学ぶ機会に恵まれてこなかったのだろう。

また、中には書写を好まない生徒もいるが、そのような生徒には、教具を工夫するなどして、文字を学ぶ楽しさを伝えられるよう努めていきたい。

これまでの硬筆学習の中で、マス目に対する「余白」の大切さについて話したことがある。生徒が書いた「十」「木」「光」という文字を見ると、その話を覚えていたのか、余白を意識した書き方をしているものが幾つか見られ、とてもうれしい。一方、文字の形という点では、正しく書けていないものが多い。特に「木」の始筆の位置、画と画との交わり方が気になる。右はらいに至っては、ほとんどできていない。

そこで、本単元では、「払い」を中心に学習する。本単元に入る前に、横画・縦画の筆使いを学んでおく（「十」）。次に、本単元で左右のはらいを学び、そのまとめとして「木」という漢字を書く。特別支援学級の先生によると、「木」という漢字なら生徒にもわかりやすいという話であった。「十」→「木」と段階を追って学習を進めることを予め生徒にも伝えおき、見通しと積み重ねをもって活動できるよう配慮する。

4 単元目標

- 毛筆学習に、興味をもって取り組む。
- 「払い」の筆使いに気を付けて、字形に注意して書くことができる。

5 指導計画（2時間扱い）

- ①「左払い」「右払い」の筆使いを理解することができる。
- ②「左払い」「右払い」の筆使いに気を付けて、字形に注意して書くことができる。（本時）

6 本時の学習

(1) 目標

- 毛筆学習に、興味をもって取り組む。(関心・意欲・態度)
- 「払い」の筆使いに気を付けて、字形に注意して書くことができる。(技能)

(2) 本時の学習で検証する仮説

【仮説2】

児童・生徒一人一人が自分の力で解決できるような支援の方法と場を工夫すれば、児童・生徒の学習意欲は喚起され、主体的に取り組むであろう。

学習中にグループでの話し合い活動を取り入れ、「見合い」や「認め合い」等、友達との関わりを通して、課題把握・練習・振り返りができる時間を持ちたい。

①場の工夫

本学級の生徒の能力差や個々がもつ問題を考えて、グループ分けを行う。

- A (えだまめ)・・・能力が高いグループ (2班)
- B (ビスケット)・・・中ぐらいのグループ (2班)
- C (CCレモン)・・・下位のグループ (2班)

の計6グループに分け、それぞれ机を班にして活動する。

②支援の工夫

①B・Cグループに特別支援学級担当の教師5名を配置し、TTで授業を行う。Aグループは、特に教師を付けない。

- A (えだまめ)・・・0人
- B (ビスケット)・・・2人
- C (CCレモン)・・・3人

※伊丹は全体指導。

②アンケートを見ると、「木」の3・4画目の起筆の位置が正しくない生徒がいる。そこで、分解文字とカラーボードを用いて、正しい字形を確認する。

③書画カメラを利用して、皆で筆使いを確認できるようにする。

④かご文字のワークシートを用意し、清書に入る前に筆使いと字形の最終確認ができるようにする。

(3) 展開 (2/2)

学習の活動と内容	教師の支援と評価	教材・教具
<p>○名前（小筆）の練習をしながら待つ。</p> <p>1 前時に学習した「左払い」「右払い」を生かして、本時は「木」という漢字を清書することを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「左払い」と「右払い」の筆使いに気を付けて書こう。</p> </div>	<p>・練習用半紙・筆、水書紙・水・筆、TV・書画カメラ等を準備する。</p> <p>○前時と本時の学習内容がわかるような資料を提示する。</p>	<p>筆使いの基準が書いてある掲示物</p>
<p>2 基準を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>・「左払い」は送筆から終筆にかけてゆっくりとしたカーブを描きながら徐々に力を抜いていき、丁寧にはらう。 ・「右払い」は一度きちんと押さえてから、力を抜きながらゆっくり書く。</p> </div> <p>3 前時に書いたものと、見本を見比べて、本時の改善点を見つける。</p> <p>4 「木」という漢字の分解文字を用いて、正しい字形を確認する。</p> <p>5 かご文字シートを用いて練習する。</p> <p>6 清書 「払い」の筆使いと字形に注意して「木」を書く。名前も書くようにする。</p> <p>6 学習の成果を確かめる。</p>	<p>○見本を見て、生徒自らが基準を確認できるようにする。</p> <p>○気を付けることを見つけるよう助言する。</p> <p>○生徒一人一人の状況を見て声を掛け、基準が理解できているかどうかを確認する。</p> <p>○落ち着いて取り組めるよう、姿勢を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>評価 毛筆学習に興味をもって取り組んでいる。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>評価 「払い」の筆使いに気を付けて、字形に注意して書いている。</p> </div>	<p>左払い・右払いのかご文字シート</p> <p>分解文字 カラーボード</p> <p>「木」のかご文字シート</p> <p>書画カメラ TV</p> <p>名前手本</p>

これまでの学習活動

文字を書くことに対する意識を高めることからスタートした。

1. 4～7月（9時間）・・・硬筆

- ① 書くときの姿勢、鉛筆の持ち方を確認した。（毎時間）
- ② いろは歌を用いて、ひらがなの「書き出すところ」について学習した。「書き出すところ」を意識することは正しい字形で文字を書くことにつながり、特別支援の生徒に適していると考えた。特に、「く」「の」「ろ」については、ボードを使ってグループで話し合いながら考えた。1の部屋から書き出す文字が多いことを確認した。（2時間）
- ③ ワークシートを用いて、ひらがなを書く練習をした。（試し書き→練習→まとめ書き 4時間）
 - ・「手本を見て書き写す」という作業を苦手とする生徒が多いので、メロンの絵を見本どおりに書く活動を取り入れた。
 - ・書画カメラを用いて、実際に書いているところを示した。模範生徒が書いているところを映し出すことで、他の生徒の意欲を喚起した。
- ④ 学んだことを生かして詩の視写を行い、硬筆のまとめとした。（2時間）
- ⑤ 学習の足跡を、書写ファイルに綴じた。（1時間）

2. 9～10月中旬（5時間）・・・毛筆

- ① 書くときの姿勢、筆の持ち方の確認を続けている。（毎時間）
- ② 横画と縦画の用筆を学習した。（2時間）
- ③ ①のまとめとして「十」という漢字を学習した。（2時間）
- ④ 左払いと右払いの用筆を学習した。（1時間）